

## 裏磐梯の自然にふれて

～美しい自然の中で～

IK

私は9月に行った福島での林間学校で、たくさんのことを学んでしました。私は、自然の素晴らしさや、雄大さ、そして美しさにとっても感動し、心を奪われました。

そして何よりも、福島の人々の心温まる笑顔や元気な笑顔に私は、震災で何もかも失ったとは思えないほど元気で、明るく私たちに接していただき、私は逆に元気を分けてもらってきました。

私が磐梯に行って一番見たかったのが、たくさん的高山植物や外来種、そして私たちが登山することによって起きている「裸地化」などの環境問題です。そのほかにも様々な分野に興味を持ち、調べてきました。でも私は、知恵のない無能な人々が登山道とは違う道を通り、それによって出来ていく道があると分かって、登山をしている人々がそのような行動をしていることに対してとてもガッカリしました。

1年の途中から始めたこのゼミ学習で、私は最初、面倒くさいと思うことも度々あったりもしましたが、約1年経った今ではとても楽しく、素晴らしい時間となっていました。そして、私たちを福島へ安全に連れて行ってくださった先生方にとっても感謝しています。

私は1日目に浄土平に行きました。ここで私が感動した場所は、山の途中で見た湖と山道からの景色です。私は初めて浄土平を歩いて、自然とはものすごく美しく神秘的なものだと感じました。私は今までに、あれだけ本格的な登山は初めてだったので、時間が経っていなくても疲れてしまいとても大変でした。しかし美しい風景を目の当たりにし、私は疲れなど忘れてしまいました。

私はこの日は、二階堂先生に案内をしていただきました。二階堂先生は、私たちが質問をしたら詳しく教えてくださって、とても勉強になりました。浄土平周辺には約59種類もの植物があります。その中でも私は「クロマメノキ」が印象深いです。クロマメノキは、ブルーベリーの仲間で、食べるとブルーベリーよりも甘いらしいです。

浄土平近辺の山で現在、火山活動をしている山があります。その山は、硫黄があり浄土平のほうに硫黄の塊がたくさん転がっていました。硫黄は約70度前後で熱くなるので、熱くなっても炎が出ないらしいです。私たちが最後に着いた場所は湖でした。そこに2,3羽の鳥が息していました。その鳥は湖に入ることが出来ません。それは湖が酸性だからです。なので、その鳥は私たち人間のお弁当の残りなどを餌にして生活をしています。ですが、私は鳥が可愛いからと言って食べ物を与えていたら、鳥たちが自分で餌を探さな

くなり、自分たちの将来や子どもにも影響が出てくると思います。なので、野生の動物を見たりしたら餌などは絶対に与えてはいけないと思います。

そのほかにも、浄土平でたくさん高山植物を見てきました。なかには、湿布薬の香りのする植物があり、この植物は本当に湿布薬に利用されているそうです。

標高の高い山では風がとても強く、一定の向きに風が吹くため木の枝の形が変形しています。そして、さっき出てきた火山活動をしている山からガスが風に乗って来るため、私たちが歩いた登山道の木々は、ところどころ茶色く変色しています。そこはガスにより変色した場所だとお聞きしました。

自分の足で山を歩いて、自分の目で自然の素晴らしさを目の当たりにし、私たち人間のせいで壊れかけた自然を目にして、私たちはこの林間学校でとても良い体験をさせていただいたと私は思います。

浄土平は雨が降る中の登山でした。しかし、登山をしていると気がつかない間に雨がやんでいました。その理由は、私たちが雨雲よりも上に上がったからでした。なので、下山してみるとまた雨が降っていてビックリしました。

## ～美しい自然の中での悲劇～

2日目、私たちは「磐梯山頂上を目指す！」というテーマでしたが、前日の雨の影響で登山道がぬかるんでしまい危険ということで、雄国山へとルート変更がありました。雄国山では、桑原先生に案内をしていただきました。雄国山でも雨で道がぬかるんで、水たまりがところどころ目に入りました。

皆さんが、登山中に水たまりを見つけたら水たまりを避けて通りたくなりますよね？しかし、その行為によって山の裸地化が酷くなってしまいます。水たまりがあるということは、そのまわりもぬかるんでいます。しかし、水たまりを避けて通ると、通った場所が踏み固められ、植物の芽が出ません。特に、女性で何にも考えずに登山に来る人はサンダルやヒールで登山をします。そんなことをしたら、水たまりを避けて通らずにはいられません。だからといって、濡れないようなトレッキングシューズを履けば良いというわけではありません。トレッキングシューズは、靴底が硬いので土を固めてしまいます。桑原先生は、「初心者はトレッキングシューズがベストだけど、山道に慣れた人ならば長靴などがいちばん良いかもね」と、話してくれました。

雄国山に入ってすぐの所にブナ林があります。そこに一本だけ、とても太くたくましいブナが聳えています。名前は「ブナ太郎」です。ブナ太郎は、雄国山でも太いブナの木です。桑原先生は毎回雄国山を登るたびに「どうか、無事に登山ができますように」とお祈りをしていると言っていました。私たちも一緒にブナ太郎にお祈りをしました。

しばらく登っていると、山の中には不釣り合いなロープが張りめぐらされていました。急な山では、登山道はカーブをした道がほとんどです。しかし、下山をする際に下を見て道があったら、皆さんだったら道ではない所を通りたくありませんか？それが人間です。しかし、山のことを考えてみてください。ただでさえ自然の中に登山道をつくらせてもらっているにもかかわらず、登山道とは違う道を通して新たに道を作り出しているのです。そのような行動をしているせいで、森の自然が破壊されています。今は変わりがなくても、10年後20年後は確実に自然が減っていきます。未来のためにも、森のことをしっかりと考えていき、その考えを行動にしていかなければならないと私は思いました。私たちが歩いた道でも裸地化が見られるところがありました。

雨の後、トレッキングシューズのように硬い靴で歩くと、土が固められ草が生えません。そこに雨水が流れ、土が流され堀のようになっていき、木の根っこが目に見えるほどにまで土が削られているところがありました。そして、その上を何にも考えずに歩いて行く人がいます。私は、もしそれが自分だったらと考えました。人間のせいで土がなくなったのに、その上を堂々と歩かれるととても嫌です。それは、誰もが考えることだと思います。なので、私はよく下を見て根っこを踏まないように気をつけながら歩きました。

そうして歩いていると、桑原先生が面白いことを教えてくれました。ドングリの帽子の部分を使って笛を作っていました。作るといっても指の間に帽子を挟んで、息を吹きかけるだけです。私が一番印象に残ったのは、キウイの原種のサルナシです。サルナシは、キウイよりもとても小さく、キウイよりも熟れていてドロドロな状態でした。キウイよりも甘いらしいです。そのほかにも、綺麗だけど猛毒があり殺人などに使われてしまう花などもありました。触るとその部分がかぶれてしまうものも見る事が出来ました。私たちは、慣れない山をしばらく登り、雄国沼に到着しました。

雄国沼には、約800mもの木道があり、沼の上を散策することができます。私たちは秋に行ったために、花はところどころにしか咲いておらず、少し寂しい感じはしましたが、ずっと山を歩いてきたので平らな道を歩くことができ、嬉しい時間となりました。周りの山などもとっても美しく、雄国沼の時には晴れていたもので、磐梯山も綺麗に見えてよかったです。

しばらく休憩を挟んだ後に、最後に雄国山の頂上に登ることになりました。山頂までは、とても険しい道で登るのがとても大変でした。みんな疲れが出てきたので、しりとりをしながら登りました。それに気がついた桑原先生が「私たちのように、森に詳しい人とだったら植物しりとりができるよ！」と言い出し、私たちはとてもビックリしました。桑原先生のように森の案内人をしている人々は、自然についての知識だけではだめなのだなど、私は感じました。

山頂からは福島のみちが見渡せて、近辺に山々が立ち並び、ものすごい絶景でした。見渡す限り美しい風景で、山を登った甲斐があったなと感じられました。

雄国山には斜面に生えている木々の中に、根元が曲がっている木や、根元が変色してい

る木があります。それは、冬に雪が降り山の斜面を滑ってきた雪に押されてしまい、雪の重さに耐えられず、曲がってしまった木です。私はその木を見て、自然は人間の力では変えられないものなのだなど、改めて感じる事が出来ました。

私はこの日、雄国山を登って、人間の考え方1つで森の自然がどんどん破壊されていくことについて考えました。人間は、みんな同じ考えを持つわけではなく、一人ひとりが違う考えを持ちます。たとえば、森の自然が破壊され少なくなっていくことを何一つ考えずに登山をする人も中にはいると私は思います。道とは違う所などを歩き回り、裸地化を悪化させていき、森から緑が消えていき動物などが住めなくなり、森は死んでいきます。持って帰ることが面倒くさくなり、自然の中にゴミを捨てていく人々。その考えとは裏腹に、落ちていくゴミを自然が壊れないように拾っていく人や、みんながちゃんとした道を通るようにと、自然を壊さないように目印をつけたりする人々も中にはたくさんいます。

私は、自然を私たちの力で生み出すのは0に近いことだと思うけど、自然を破壊するのは人間1人でも簡単に出来ることだなど感じました。自分1人くらいここを通っても植物には何も影響がないと考える人がいるかもしれません。確かに、その時には何にも変化が見られないかもしれません。しかし時間がたてば必ず自然は壊れます。その上を何人も何人も通って行き裸地化は進んでいきます。その簡単な考え方で、自然は今も少しずつ壊れていっています。

10年後、20年後そこには緑が無くなってしまっているかもしれません。私は、自然は今も、そしてこれから先も必要なものだと思います。なので、私は今は何かをできる力はないけれど、これから先自然を破壊するのではなく自然を守っていきたいと思います。

## ～宿泊したところで～

私は、この日の夜に被災した大熊町の人々と同じホテルに泊まっていることを知りました。私は2日間一緒に泊まっていてまったく気がつきませんでした。私は何度か、宿泊している人とお話をする機会がありました。被災した方々は常に笑顔で、「どこから来たの?」「ここは、いいところだからね」と話しかけていただきました。その他にも会うたびに、笑顔で挨拶をしていただき、私は元気をもらいました。人は挨拶で人間を笑顔にさせることが本当にできるのだなと思いました。ホテルに泊まっていた方々は、常に笑顔で私たちとお話をしてくれました。実際に被災した人と会話をしてみて、今まではTVで見てきたけれど、TVでは感じられない気持ちが伝わってきました。

## ～今回の体験で得たものとは～

今回の林間学校は、3日間という短い時間だったけれど、とても大きなものを私たち布佐中の2年生全員に与えてくれました。

普段の生活では、見ることのできない自然の美しさや雄大さ。そして、無神経で無知な人間のせいで、今まさに壊れかけている壮大な自然。それを元に戻そうと日々努力をしている地元の人々。そして私たちが登った山には、探せば探すだけ新たな自然が溢れ出してきた、そして私たち人間を魅了させてくれる。そんな自然の優しさを私たち人間は今まさに裏切って破壊しようとしている。私は、自然を裏切りたくないし、将来たくさんの人に私が体験したこの感動を感じてほしいと思います。それに、森の中でゴミを捨てると、誰かが拾わなくてははいけません。しかし、みんながちゃんと自分のゴミを持って帰れば誰かが拾わなくても、森にゴミが落ちている状況はなくなります。それに、みんながちゃんと作られた道を通っていれば、裸地化も無いはずです。誰かが呼びかけをしても、自分で考えなければ行動に変化は起こりません。今の自然の状況は私たち人間の行動が表れているのだと思います。みんながちゃんと自然の気持ちを考えて行動していけば、自然は自然に守られていくと思いました。

1年生でこの自然学習が始まった時、私は「別にどうでもいいや」と考えていました。でも、先生たちが事前に私たちの安全のために福島まで足を運んでくれて、いろいろ調べてきてくれて、少しずつ学習が楽しくなってきました。私は、興味があるものは徹底して調べました。小動物の食べるもの・外来種の影響・高山植物・環境問題。いろいろなことを調べていくうちに、1日でも早く福島に行きたいと思えるようになってきました。しかし、3月11日のあの震災で福島への林間学校が延期になり、最初は残念だったけどその分だけ学習時間が長くなったので、たくさんの知識を頭に入れていくことができました。そして何よりも、被災した方々と直接お話しができて、心から良い体験ができたと感じることができました。

私は、福島の実情を目の当たりにして、衝撃を受けました。まばらにしか通っていない車。森の中でもすれ違いの少ない人々。私は、TVでは感じることのできないものを体感してきました。でもそんな中でも、明るく笑顔で生活を送っている人々に出会えてホッとしています。

私は、今回の林間学校を通じて人々に感謝をすることができました。私たちのために、時間を割いてまで下見に行ってくださった先生方。この日のために準備などを手伝ってくれた親。そして、自分たちが大変な目に逢っているにも関わらず、私たちが来るのを心か

ら楽しみにしてくださった福島の方々。この全ての人がいなければ、私たちの林間学校はこんなに素晴らしいものにならなかったと思います。

これからも、TVやインターネットなどで、被災した方々を応援していき、自分が協力できることは、率先して協力していきたいと思います。そしてこの経験を生かして、卒業して大人になっても、この気持ちを忘れずに生きたいと思います。